

# 第7回 矢作川水系流域委員会

## 議事要旨

日時：令和5年10月23日（月） 10：00 - 12：00

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋駅前ホール 3A

### 1. 開会

### 2. 挨拶

### 3. 話題提供

#### (1) 最近の河川事業を取り巻く話題

- ①令和5年6月出水（概要）
- ②令和5年6月出水（矢作ダムの洪水調節効果）
- ③洪水調節容量に貯留することによる水力発電の増強（矢作ダム）
- ④流域治水プロジェクト2.0の策定について
- ⑤津波・地震に備えた取り組み
- ⑥矢作川総合土砂管理検討委員会の概要

・今年度は、昨年度より水質状況が改善しているという話だが、昨年度の結果を見ると、秋から冬にかけて水質が悪化しており、これはまれに起こることだと考えられることから、今後もぜひ注視していただきたい。特に、報告によると、水の色が無色から黄色がかったような色になったという報告があるので、外観も含めこれから注視していただきたい。

→（事務局回答）引き続き監視、注視していきたい。

・カーボンニュートラルの取組による水力発電の増電運用の影響で、下流への濁水や冷水の長期化が懸念されることから、下流の生物に悪影響が無いよう運用方法等にも配慮いただきたい。

→（事務局回答）状況確認しながら運用していきたい。

→（委員長）制限水位超過分を発電に転用する際、放流の運用については今後検討していただきたい。

### 4. 議題

#### (1) 矢作川総合水系環境整備事業の再評価

・今回の河口部自然再生事業の再評価は、評価手法の見直しにより B/C が小さくなっており、急激に事業効果が減少した印象となっているが、実体的にはほとんど減少していないと考えられる。一般の方が見て誤解がないように資料に示すことができないか。

→（事務局回答）全国的に実施している評価手法であることから、資料への記載の有無を含めて検討していきたい。

→（委員長）こういった意見は、ぜひ全国的な会議等で発信していただきたい。

・維持管理費が 50 年間一定となっているが、どのように算定しているか。

→（事務局回答）維持管理を実施している豊田市への聞き取りにより、実績の平均値を基に計上している。

・支払意思額が減少して便益が上昇した要因は、受益範囲の変更が大きく影響していると思われるが、受益範囲の変更は妥当であるか。

→（事務局回答）マニュアルに準拠し設定している。また、前回と同様の受益範囲でも事業効果があることを確認している。

・自然再生には、河川環境の再生や生物多様性の創出など多面的な機能があるため、そうした金銭換算できない非利用価値についても評価指標に加えられると良い。

・CVM 調査で非利用価値について分析していくことは可能か。

→（事務局回答）これまでも議論してきているが、非利用価値等については分析するのは難しく、本省等へも意見を伝えながら、より良い評価ができるよう努めていきたい。

→（委員長）流域委員会において出た事業評価に対する様々な意見に対して、本省や整備局など一堂に会して議論されているか。

→（事務局回答）一堂に会しての議論はないが、事務所長から意見を伝える機会があるので、共有していきたい。

・自然再生や水辺整備により水辺空間の利活用が進むことが、流域治水の理解・促進につながるため、あらゆる場面で流域治水との関連性を持たせることは非常に大事だと考える。

・愛知県への意見聴取を、なぜ実施しているか。

→（事務局回答）河川改修事業を含めて、100%国費ではなくて負担金があるので、意見聴取している。

（委員長の総括）

・矢作川総合水系環境整備事業の再評価の対応方針（原案）について了承する。

→（事務局回答）本日いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

(2) その他

- ・(事務局) 第 8 回の流域委員会では、矢作川直轄河川改修事業の再評価を予定している。

以上